ラピダス小池社長が倶楽部で講演

「北海道バレーを創ろう」



千歳市に工場を建設中の**ラピダス**（**北海道倶楽部会員**）が6月27日、北海道倶楽部で講演した＝写真。小池氏は「ラピダスによる北海道への経済効果は最大18・8兆円に上る」と強調、「シリコンバレーに負けない北海道バレーを創ろう」と語った。

倶楽部主催の特別講演会には会員を中心に約60人が出席。小池氏は2022年、会社を立ち上げた経緯、先体半導体の世界の現状などについて説明した。

この中で「IBMが日本での半導体パートナーを探していたのが一つのきっかけ。会社設立当時は社員が12人。12人の侍と呼んでいた」と、内輪話を披露。小型半導体「2n（ナノ）m（メートル）」への挑戦を決断した。

千歳市に建設中の工場は2023年9月に着工、今年10月には完成する。27年には先端半導体の量産を開始する計画だ。

課題も多く、小池氏は「電力消費量が膨大なのが最大の問題。世界の電力供給の6割を使用するとのデータもあるため、これをどう抑えるかが、今後の勝負になる」と、懸念も口にした。また、日本では半導体人材が乏しいのも、懸念材料という。

ラピダスの目標は「（事業の）スピードで差別化を目指す」ことだ。千歳の工場については「半導体工場では世界一の規模」と自負し、「建設に当たっては自然環境を最優先し、取り組んでいる」とも話した。

小池氏は千葉県出身。1978年、早大大学院理工学研究科修了、日立製作所入社。半導体の技術開発に取り組んできた。